

2018 年度 桐朋女子中学校入学試験 (A 入試)

## 口頭試問 問題文

### 【注 意】

- (1) 指示があるまで、開いてはいけません。
- (2) 指示にしたがい、受験番号と氏名を書きなさい。
- (3) 指示にしたがって、問題文を読み、課題に答えなさい。
- (4) 問題文や課題の冊子は、あとの試問の部屋でも見ることはできません。

|      |  |    |  |
|------|--|----|--|
| 受験番号 |  | 氏名 |  |
|------|--|----|--|



次のページから問題文が始まります。

## 1 衣服を着る意味

私たち人間と動物には色々な<sup>ちが</sup>違いがありますが、衣服を着て生活するという点も人間と動物との大きな違いです。もちろん、世界にはさまざまな民族や文化などがあり、暑い地方ではほとんど衣服を着ないで裸<sup>はだか</sup>に近いような民族もいます。しかし、多くの国々では、衣服を着て毎日を過ごしています。では、私たちはなぜ衣服を着るのでしょうか。衣服を着るということには、どんな意味があるのでしょうか。今日は、私たちと衣服との関わりについて考えてみましょう。

衣服を着る意味として、ここでは大きく2つに分けて考えてみます。1つは、「被<sup>おお</sup>う」ということ、そしてもう1つは、「装<sup>よそお</sup>う」ということです。

まず、「被<sup>おお</sup>う」ということについて考えてみましょう。衣服を着ることにより、肌<sup>はだ</sup>が被<sup>おお</sup>われます。すると、素肌<sup>すはだ</sup>の状態に比べて、外の日ざしや空気に直接<sup>ふ</sup>触れなくなるので、身体<sup>からだ</sup>を守ることに繋がります。例えば夏の暑い日、袖<sup>そで</sup>なしのシャツを着<sup>う</sup>て腕を出していると、ひどい日焼けをしてしまうことがありますし、ショートパンツで足を出して山に登ると、虫にさされたりすることがあります。また、冬の寒い日、フリースやコートなどを着ると、暖かく過<sup>あ</sup>ごすことができます。このように、「被<sup>おお</sup>う」ために衣服を着るということは、まわりの環<sup>かんきょう</sup>境から身体を守り、安全で快適に過<sup>あ</sup>ごすことにつながります。

次に、「装う」ということについて考えてみましょう。衣服は、長袖シャツ、半袖シャツ、スカートやズボンといった形だけでなく、色や柄がらもさまざまです。皆さんも、衣服を買ったり着たりする時、何でも良いのではなく、自分に似合うか、どんな印象になるかなど、いろいろと考えるはずです。また、スポーツでは、同じチームのメンバーが同じユニフォームを着ることで、仲間意識を強めたり、他のチームと区別したりすることができます。このように、「装う」ことで、個人の趣味しゅみや自分らしさを表したり、自分が入っている団体や職業などを表したりすることができます。

衣服は、身体を守り安全で快適に過ごすための「被う」役割と、自分や集団を表すための「装う」役割があると言えるのです。

## 2 日本人の伝統的な衣服の材料

日本人は、原始時代から着るものの素材として絹きぬと麻あさを利用してきました。絹は蚕かいこが作る繭まゆから繊維せんいを取り出したもので、なめらかで光沢こうたくもあり、上品な風合ふうあいであることから、高級品として豪族ごうぞくや貴族など身分の高い人々の着るものとして利用されました。

一方、麻は苧麻<sup>ちよま</sup>という植物から繊維を取り出したものです。苧麻は日本のどこでも栽培<sup>さいばい</sup>ができる植物であり、麻はとても丈夫<sup>じょうぶ</sup>であることから、一般の民衆の着るものとして利用されてきました。ただし、糸に弾力性<sup>だんりょく</sup>が少なく身体にフィットしにくいこと、染料<sup>せんりょう</sup>でそめてもそまりにくいことなど、いくつかの欠点もあります。

ところが、室町時代に入ると、中国や朝鮮半島<sup>ちようせん めんか</sup>で綿花<sup>もめん</sup>の栽培、木綿の生産が行われ、日本人は貿易を通して木綿を買い入れるようになりました。綿の木は、花がさいた後に実をつけますが、この実は、ふつうの木の実とは違って実の中に白いふわふわの繊維ができます。木綿はそれを取り出してつむいで作ったものです。肌ざわりがよい、保温性がある、水分を吸収しやすい、染料でそめやすいなど、いくつかの利点があります。そのため日本人が競って買うようになったのです。

戦国時代になると、木綿のすぐれた点が認められ、さらに色々な場面で利用されました。冬の寒さをしのぎやすいということから、戦いに出陣<sup>しゅつじん</sup>する武士たちが鎧<sup>よろい</sup>の下に着るものとして利用されました。また、あざやかに色がそまることから、衣服以外にも、戦いの時に使う旗<sup>はた</sup>やのぼりとして利用されました。そして、火縄<sup>ひなわ</sup>にしたときに火が消えにくいことから、この頃<sup>ころ</sup>ヨーロッパから伝わった鉄砲<sup>てっぽう</sup>の火縄として利用されました。さらに、当時の船は帆<sup>ほ</sup>を利用して走らせていましたが、木綿の帆は風を受け止めやすいことから、船のスピードが速くな

るということで、帆にも利用されました。

平和な江戸時代に入ると、木綿は民衆の着物の素材として大いに広まり、国内でも綿花の栽培と、木綿の生産が各地でさかんに行われるようになりました。しかし、麻がまったく利用されなくなったわけではありません。風を通しやすいことから夏の着物として利用されたほか、武士たちがお城に上がる時に着る<sup>かみしも</sup> 袴 などには麻のピンとした性質が好まれ、利用されました。



江戸時代の末に開国すると、ヨーロッパから<sup>けおりもの</sup> 毛織物が入ってきました。毛織物は<sup>ひつじ</sup> 羊などの動物の毛からとった素材で、水をはじく性質がある一方で、<sup>しっけ</sup> 湿気をよく吸収するため、夏は身体から湿気を取り、冬は適度な湿気を保ち、保温性にもすぐれているという利点があります。明治時代以降、コートやセーターなど防寒用の衣服として広まり、毛織物も日本人の大切な衣料の素材になりました。

ここまでで、課題1～4に関する問題文は終わりです。

ピンクの冊子の課題を仕上げなさい。

次の指示があったら、この先のページに進みなさい。

### 3 衣服の工夫

私たちは、その日の天気や季節などの変化に応じて、快適に過ごせるよう衣服を工夫して選んで着ています。例えば、蒸し暑い日には長袖ではなく風通しの良い素材でできた半袖の服を着たり、寒い日にはスカートではなく厚手の長ズボンをはいたりします。服の素材や厚さ、形なども考え、衣服の特性を生かして使い分けているのです。

衣服を着ると、肌と衣服の間に外の環境と違う空気の層が作られます。この空気によってできた空間の状況を「衣服内気候」と呼びます。人が快適だと感じる衣服内気候の温度は32°C前後とされています。また、衣服が汗を吸わないと、衣服内気候の湿度が上がり、人は不快に感じます。夏の暑い日に、シャツの裾やえりもとをパタパタと動かして、外の空気を入れたことはありませんか。それは、外の涼しい空気や乾いた空気を肌と衣服の間に取り込み、衣服内気候を快適なものにしようとするからです。寒い日には、何枚か重ね着をすると、肌と衣服の間だけでなく、衣服と衣服の間にも空気の層ができることになります。空気は、熱を伝えにくいので、良い断熱材となります。繊維と比べると、熱の伝えにくさは約10倍です。そのため、衣服の中に多くの空気が含まれていると、保温性が高まります。

衣服内気候を快適に保つには、空気の層の状態を上手に調整することが重要になります。衣服の工夫により、私たちはより快適に過ごす



ことができるのです。

スポーツ選手のユニフォームは、その競技の<sup>とくちょう</sup>特徴に合った形や素材で作られています。特に素材は年々、新しいものが開発され、より動きやすく、快適に競技ができるよう工夫されてきています。さらに、スポーツウェアだけでなく、私たちの<sup>ひごろ</sup>日頃の衣服にも新しい機能は使われています。どんな機能があるか、具体的な例をいくつか<sup>しょうかい</sup>紹介します。

①<sup>けいたい</sup>形態安定性・・・<sup>せんたく</sup>洗濯したりしても<sup>かたくず</sup>型崩れがしにくい機能。

②<sup>きゅうしつ</sup>吸湿発熱性・・・汗などの水分を吸い取り、熱に変える機能。

③<sup>こうきんぼうしゅう</sup>抗菌防臭性・・・<sup>ざっきん</sup>雑菌が増えるのをおさえ、汗などの不快なにおいを防ぐ機能。

④<sup>そっかん</sup>速乾性・・・吸い取った水分をすばやく外に<sup>に</sup>逃がしたり、洗濯後に乾きやすくしたりする機能。

これらは、例えばワイシャツには<sup>くつした</sup>形態安定性、靴下には抗菌防臭性など、その衣服を着る目的や<sup>じょうきょう</sup>状況に合わせて取り入れられています。ですから、最近では、衣服は形だけでなく、どんな機能を持った素材で作られているかも考えて選ばれています。

日本には四季があり、季節によって着る衣服もさまざまです。私たちは、自分らしく、そして快適に過ごせる衣服とはどんなものか、日頃から考えていくようにしたいものですね。

これで問題文は終わりです。

緑の冊子の課題を仕上げなさい。



